

景況調査

報告書 NO. 22

平成16年 1月～3月 実績
平成16年 4月～6月 見通し



蒲郡商工会議所
中小企業相談所

平成16年度第4四半期(H16.1~3月)景況調査

1. 調査時点 平成16年4月

2. 調査対象

- (1) 対象地区 蒲郡市内
- (2) 対象(回答)企業 159[152企業、7団体 = 三河織物工業(協)、中部繊維ロープ工業(協)、蒲郡市上下水道工事(協)、蒲郡建設業(協)、三河繊維産元(協)、愛知県ホテル・旅館生活衛生同業組合蒲郡支部、蒲郡鉄工会]

3. 調査方法

4. 回答企業の内訳

聞き取り調査によるアンケート調査

業種	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	運輸通信業	全業種
合計	60 (3)	13 (2)	24 (1)	34	17 (1)	11	159 (7)

()は団体

5. 概況

全業種総合判断DI値(当期実績)は、**前年同期比**で見ると 19.5、前期(10~12月・17.9)と比較すると1.6ポイントの下降、**前期比**で見ると 28.9、前期(10~12月・9.0)と比較すると19.9ポイントの下降、いずれも悪化の傾向が見られた。また、**売上DI値**についても、前期比で見ると 36.5、前期(10~12月・5.8)と比較すると42.3ポイントの下降、悪化の傾向が見られた。**収益DI値**は 35.3、前期(10~12月・14.7)と比較すると20.6ポイントの下降、悪化の傾向が見られた。**総合判断来期(H16.4~6月)見通し**については、13.8、前期(10~12月・25.6)と比較すると11.8ポイントの上昇、改善の傾向が見られる。

「**製造業**」のうち**食料品**は、年末の需要期を過ぎ、また安価な海外製品の流入もあり、厳しい環境下にある。

織物は、ジャカード・カーテン、ドビー・カーテンともに、仕事量は減少しており、また白生地織物も広幅については、期近物中心に仕事は出ている。先染織物については、ほとんど仕事がなく、少ロットで稼働率も悪い。

漁網・ロープのうち、繊維ロープは、出荷量も減少しており、中国等からの輸入は増加している。水産業界の低迷が響いている。漁網は、季節的需要期にあたり受注量は増加している。

鉄工のうち、工作機械関係は、輸出に支えられ堅調に生産・売上を維持している。自動車関連は、総じて排気ガス規制・新車効果により堅調に生産・売上を維持している。

化学・プラスチックのうち、化学工業は、円高・医療費患者負担などの増加により売上の減少で厳しい。プラスチック加工は、原料高の気配が高く、駆け込み仕入れを行っている。

「**建設業**」は、全体として持ち直し感はあるものの、低水準での推移という印象である。今後、鋼材等の上昇により収益率の低下が懸念される。

「**卸売業**」のうち**繊維卸**は、産業資材関連：商品にバラツキがあるものの、全体的には荷動きが悪くなっている。寝装関連：1~2月は不需要期で厳しい、特に量販ルートが苦しい。素材に関して、加工で中国品との差別化をして生き残りを図っている。インテリア関連：この時期に一番期待できる時期である。加工で光触媒が目立っており、特殊な形状をした糸、カスリ染め等カラフルな物を使ったカーテン地など好調である。衣料：中国・東南アジアを中心とした輸入綿糸、輸入綿花の急激な価格アップが生産コストにはね返り、足かせになって荷動きが悪い。

「**小売業**」は、ほとんどの個店では売上が減少している。2月に商店街スタンプラリーの抽選会が行われ、これにより、市内消費者が個店を利用され、個店の魅力が認識された。中心市街地活性化事業で空き店舗を利用しての「チャリショップ」、福寿稲荷ごりやく市など企画中である。

石油は、OPECの減産決定による原油高騰の影響で仕入価格が大きく上がり、これに対する価格転嫁が急務である。

「**サービス業**」のうち**旅館**関係は、初詣・新年会・歓送迎会等の多いシーズンであったが、利用人員・利用料金の伸びは無く厳しい状況であった。浜名湖花博の団体客の予約が入り始めており、期待できる。

「**運輸通信業**」のうち**旅客・貨物輸送・水運**は、海運関係：既存貨物(木材・木材加工品・自動車)の取扱いは非常に厳しい。荷主・貨物の開拓が早急に望まれる。陸運関係：貨物量については、前期に比べ微増である。3月末の増加に期待をする。バス業界：昨年12月から本年1月にかけての落ち込みは大きい。会員募集ツアーの催行数は、多少改善してきたが、前年に比べ大幅減の状況が続く。乗合バスは、安定的である。

設備投資状況は、全般的には低調だが、回復のきざしがあり、39事業所(56件)で設備投資が実施され、生産設備・車両運搬具・OA機器が上位にランクした。来期は36事業所(47件)が設備投資を計画されている。

経営上の問題点では、売上の停滞・減少、利幅の縮小、競争激化が項目別・業種別で上位を占めていた。

当地区においても、依然としてデフレの長期化、雇用の停滞、個人消費の低調、設備投資の低調、原油価格高騰による原材料価格の上昇、住宅着工数の低調、中国・アジア製品の輸入拡大、円高等の影響により、1~3月期の業況判断DI(全業種全体)は、水面下にあり、悪化の方向にあるが、来期見通しは改善傾向にある。今後、集客力を誇る『ラグーナ蒲郡』を核とした観光事業の活性化、TMO事業による中心市街地の活性化、蒲郡港の再生、中小企業の経営支援などを推進する。

全業種(当期実績)

(DI 単位:%)

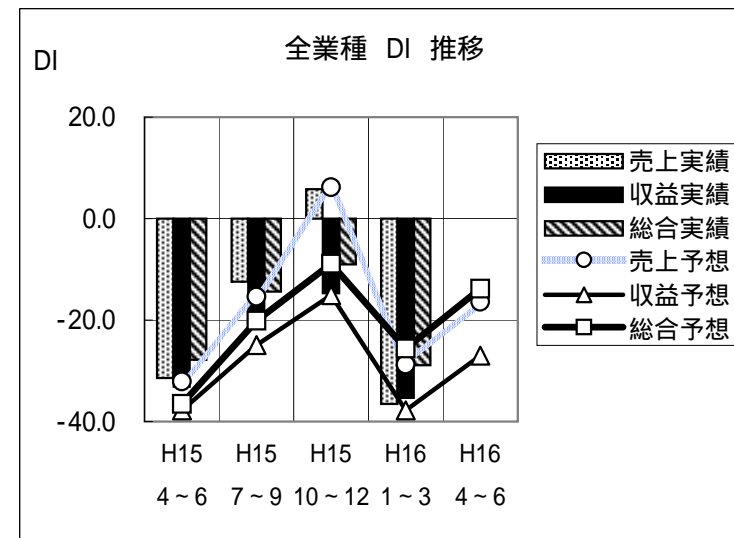
<全業種 各項目別推移>

(DI 単位:%)

	前年同期比 (平成15年1月~3月)	前期比 (平成15年10月~12月)	来期見通し (平成16年4月~6月)		売上		収益		総合判断		
					前年同期比	前期比	前年同期比	前期比	前年同期比	前期比	来期見通し
生産額・売上額	-18.9	-36.5	-16.4	H15. 1~3月実績	-33.9	-41.7	-42.3	-42.3	-40.4	-39.8	-36.5
製品・商品在庫	-10.7	-12.6	-5.0	H15. 4~6月実績	-37.3	-31.4	-34.9	-33.1	-26.6	-27.8	-20.1
資金繰り	-17.6	-18.3	-12.0	H15. 7~9月実績	-25.5	-12.4	-30.3	-20.0	-23.4	-14.4	-8.9
採算(収益)	-27.1	-35.3	-27.0	H15.10~12月実績	-19.9	5.8	-24.4	-14.7	-17.9	-9.0	-25.6
従業員数(含む臨時・パート)	-5.0	-7.0	-2.5	H16. 1~3月実績	-18.9	-36.5	-27.1	-35.3	-19.5	-28.9	-13.8
貴社の業況(総合判断)	-19.5	-28.9	-13.8								

[総合判断]

業種	前年同期比	前期比	見通し	業種	前年同期比	前期比	見通し
全業種				卸売業			
				(繊維卸)			
製造業				小売業			
(食料品)				(飲食)			
(織物)				(石油等 その他小売)			
(漁網・ロープ)				サービス業			
(鉄工)				(旅館)			
(化学・プラスチック)				運輸通信業			
建設業				(旅客・貨物 輸送・水運)			



< 業況判断DIの推移 >

	H15.4~6月	7~9月	10~12月	H16.1~3月	4~6月見通し
売上	-31.4	-12.4	5.8	-36.5	-16.4
収益	-33.1	-20.0	-14.7	-35.3	-27.0
総合	-27.8	-14.4	-9.0	-28.9	-13.8

DI (デフュージョン・インデックス 業況判断指数) について
 DIは景気が上向きか、下向きかを表す指数である。

DI(%) = 増加・良好などの割合 - 減少・悪化などの割合

(注) 生産額・売上額 : DI = (増加) - (減少)
 製品・商品在庫 : DI = (減少) - (増加)
 資金繰り : DI = (好転) - (悪化)

採算(収益) : DI = (上昇) - (下降)
 従業員数 : DI = (不足) - (過剰)
 業況(総合判断) : DI = (好転) - (悪化)

DIが0より大 → 景気上向き
 DIが0 → 景気横ばい
 DIが0より小 → 景気下向き

(総合判断のDIの目安)

DI 50%以上 DI 6 ~ 49% DI 5 ~ -5%

DI -6 ~ -49% DI -50%以下

6. 業種別報告

製造業

売上DI値は 23.4、前期実績10～12月期（14.5）に比して37.9ポイントの下降。収益DI値は 28.4、前期実績10～12月期（ 7.3）に比して21.1ポイントの下降、総合判断DI値は 23.3、前期実績10～12月期（3.6）に比して26.9ポイントの下降、いずれも悪化傾向であった。見通しとしては、いずれも改善傾向である。

製造業

(DI 単位:%)

	前年同期比 (平成15年1月～3月)	前期比 (平成15年10月～12月)	来期見通し (平成16年4月～6月)
生産額・売上額	-1.7	-23.4	-20.0
製品・商品在庫	-5.0	-8.3	-11.7
資金繰り	-6.6	-16.6	-18.3
採算(収益)	-6.6	-28.4	-35.0
従業員数(含む臨時・パート)	1.7	-1.7	1.6
貴社の業況(総合判断)	-5.0	-23.3	-20.0

[食料品]

売上は、前年同期比DI値0.0と停滞。年末の需要期を過ぎ、前期比ではDI値は 75.0と減少。安価な海外製品との競争により、国内の原料加工業界は厳しい経営環境下であり、販売力の弱い企業にとって深刻な状況が続いている。収益は、前年同期比DI値 37.5、前期比ではDI値 62.5と悪化傾向。販売先からの値下げ要請などによる利幅圧迫で深刻な状況にある。従来からのコストダウンの取り組みの成果により前年比採算性向上の企業もみられる。総合判断は、前年同期比DI値12.5、前期比ではDI値 62.5である。

向こう3ヶ月の見通し

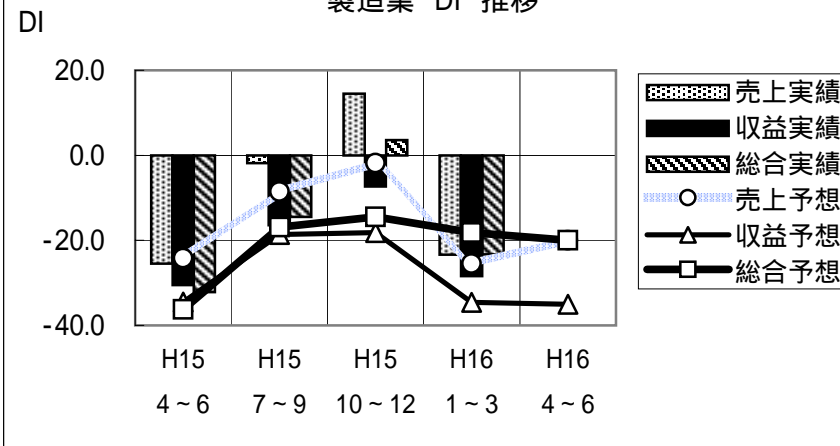
売上は、DI値25.0、収益は、DI値0.0、総合判断では、DI値37.5である。営業活動の強化に取り組み、新規受注を確保し業況好転を見込む企業や、観光客向け直営販売店をオープンし今後が期待される企業もある。（食品部会）

(食料品)

(DI 単位:%)

	前年同期比 (平成15年1月～3月)	前期比 (平成15年10月～12月)	来期見通し (平成16年4月～6月)
生産額・売上額	0.0	-75.0	25.0
製品・商品在庫	0.0	-12.5	12.5
資金繰り	0.0	-12.5	12.5
採算(収益)	-37.5	-62.5	0.0
従業員数(含む臨時・パート)	12.5	-12.5	0.0
貴社の業況(総合判断)	12.5	-62.5	37.5

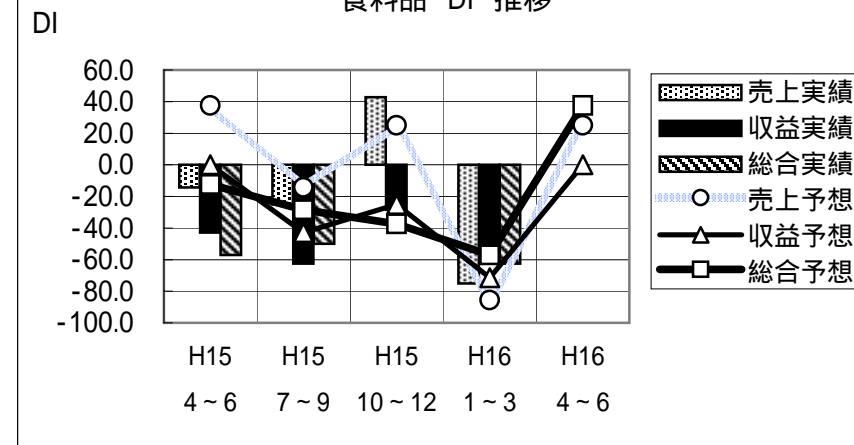
製造業 DI 推移



<業況判断DIの推移>

	H15.4～6月	7～9月	10～12月	H16.1～3月	4～6月見通し
売上	-25.5	-1.8	14.5	-23.4	-20.0
収益	-30.5	-16.4	-7.3	-28.4	-35.0
総合	-32.2	-14.5	3.6	-23.3	-20.0

食料品 DI 推移



<業況判断DIの推移>

	H15.4～6月	7～9月	10～12月	H16.1～3月	4～6月見通し
売上	-14.3	-25.0	42.8	-75.0	25.0
収益	-42.8	-62.5	-28.6	-62.5	0.0
総合	-57.1	-50.0	0.0	-62.5	37.5

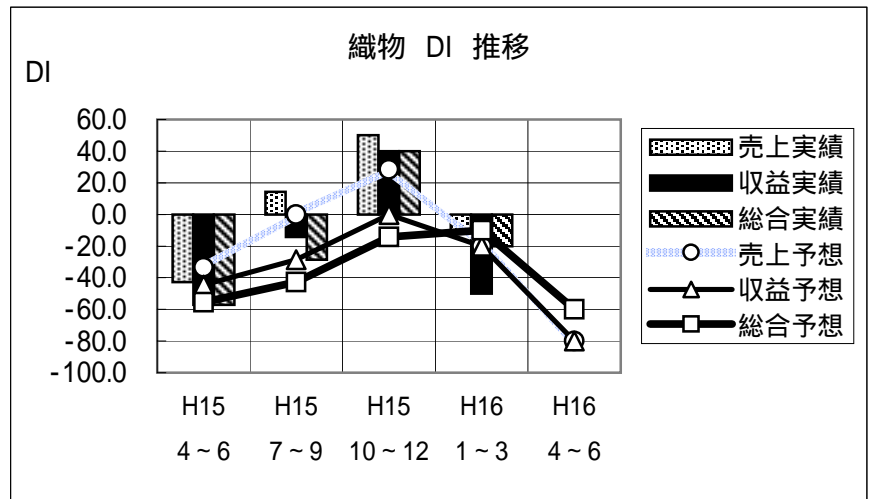
[織物]

主力商品であるジャカードカーテンについては、全体的に予想した程仕事量は減少しなかった。2月までは経込はほぼ100%の稼働率であったが、3月に入り減少してきているドビーカーテンについても、仕事量は横這いで推移しているが、まだ充分ではない状況である。白生地織物は、広幅については期近物中心に仕事は出ており稼働率は90%前後である。並幅については、仕事量が少なく減少傾向が続いている。先染織物は、殆んど仕事が無い為に、全てが少ロット物であることから、白生地織物を生産しているのが現状である。しかし、工賃水準は全く回復の兆しは無く、何れも採算面は非常に厳しい状況が続いており、期近発注による短納期化・少ロット化が進み稼働率は非常に悪くなっている。今後の見通し、ジャカードカーテンは、仕事量は多少減少するものと思われ稼働率は50%程度に落ち込むものと思われる。ドビーカーテンは、ジャカード程の落ち込みは無いと思われる。白生地織物は、仕事量の増加は見込み出すので、今期の横ばいであれば上々と思われる。先染織物は、春夏物が主流であり仕事量の増加を期待しているが、夏物の仕事は殆ど出ておらず現状と同じ状況が続くと思われる。採算面で非常に厳しい状況が続いている中で、円も高値で安定しており、このまま推移すれば、輸入が増加し、原料の高値と併せ工賃への圧迫が懸念されている。総体的に、長期に亘る業況不振の影響で資金繰りは非常に悪化しており、運転資金の新規借入れも難しい状況が続いている。(織維部会)

(織物)

(DI 単位:%)

	前年同期比 (平成15年1月~3月)	前期比 (平成15年10月~12月)	来期見通し (平成16年4月~6月)
生産額・売上額	0.0	-10.0	-80.0
製品・商品在庫	10.0	10.0	-30.0
資金繰り	-20.0	-30.0	-60.0
採算(収益)	-10.0	-50.0	-80.0
従業員数(含む臨時・パート)	10.0	10.0	10.0
貴社の業況(総合判断)	-10.0	-20.0	-60.0



<業況判断DIの推移>

	H15.4~6月	7~9月	10~12月	H16.1~3月	4~6月見通し
売上	-42.8	14.3	50.0	-10.0	-80.0
収益	-57.1	-14.3	40.0	-50.0	-80.0
総合	-57.1	-28.6	40.0	-20.0	-60.0

[漁網・ローブ]

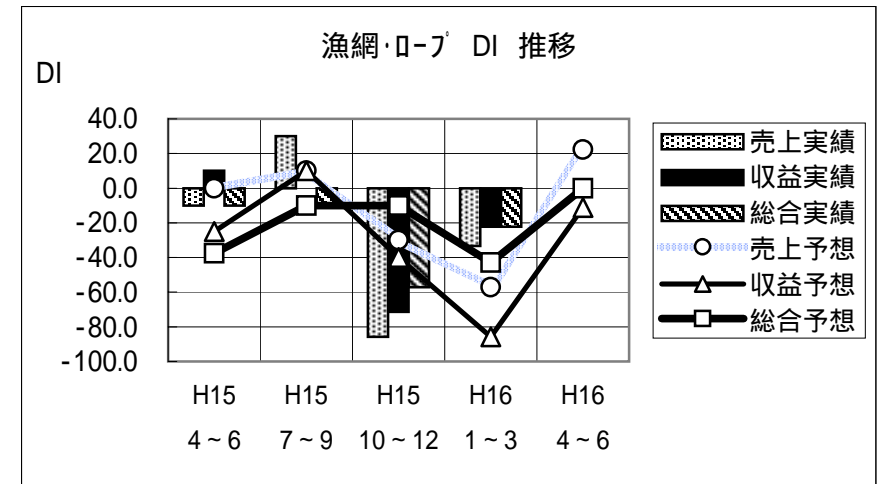
織維ローブ：出荷額は、前期比で概ね1割減少し、反面輸入は増加している。造船・運輸の一部でやや明るい傾向はあるものの、主需要先である水産業界の低迷が響いている。

漁網：季節的需要期にあたり、受注量は前期比増加している。しかし、安い輸入品の攻撃により、採算面は厳しい。(織維ローブ部会)

(漁網・ローブ)

(DI 単位:%)

	前年同期比 (平成15年1月~3月)	前期比 (平成15年10月~12月)	来期見通し (平成16年4月~6月)
生産額・売上額	-44.5	-33.4	22.2
製品・商品在庫	-33.3	-44.4	-22.2
資金繰り	0.0	-22.2	-11.1
採算(収益)	0.0	-22.2	-11.1
従業員数(含む臨時・パート)	-22.2	-22.2	-11.1
貴社の業況(総合判断)	0.0	-22.2	0.0



<業況判断DIの推移>

	H15.4~6月	7~9月	10~12月	H16.1~3月	4~6月見通し
売上	-10.0	30.0	-85.7	-33.4	22.2
収益	10.0	0.0	-71.4	-22.2	-11.1
総合	-10.0	-10.0	-57.1	-22.2	0.0

[鉄工]

工作機械関係：総じて堅調に生産、売上を維持している。要因は輸出(アメリカ・中国)に支えられており、国内も自動車向けを中心に堅調に推移している。懸念材料としては、素材の鋼材(中国の要因による)の値上げ、原油の高騰、為替の動向などがある。

自動車部品関係：総じて堅調に生産、売上を維持している。要因は排気ガス規制、新車効果による高いレベルの生産・売上が続いている。尚、値下げによる納入単価が厳しく、それに比例して収益は上がっていない。

向こう3ヶ月の見通しは

市内工業専用地域においてヤマハ蒲郡製造(株)が撤退した後、アイシンAW工業(株)が進出の予定である。(金属鉄工部会)

(鉄工) (一般機械器具・輸送用機械・精密機械) (DI 単位:%)

	前年同期比 (平成15年1月～3月)	前期比 (平成15年10月～12月)	来期見通し (平成16年4月～6月)
生産額・売上額	38.9	22.2	-16.6
製品・商品在庫	-5.6	-5.6	-16.6
資金繰り	-5.5	-16.7	-11.1
採算(収益)	22.2	-5.5	-27.8
従業員数(含む臨時・パート)	5.6	5.6	11.1
貴社の業況(総合判断)	11.1	0.0	-16.6

[化学・プラスチック]

化学工業：円高・衣料費患者負担の増加により売上の減少や輸送・原材料費の増加により厳しい状況である。

プラスチック製造加工：原料高の気配が高く、駆け込み仕入れ等コストアップ抑制に努力している。利益面は横バイ状態である。

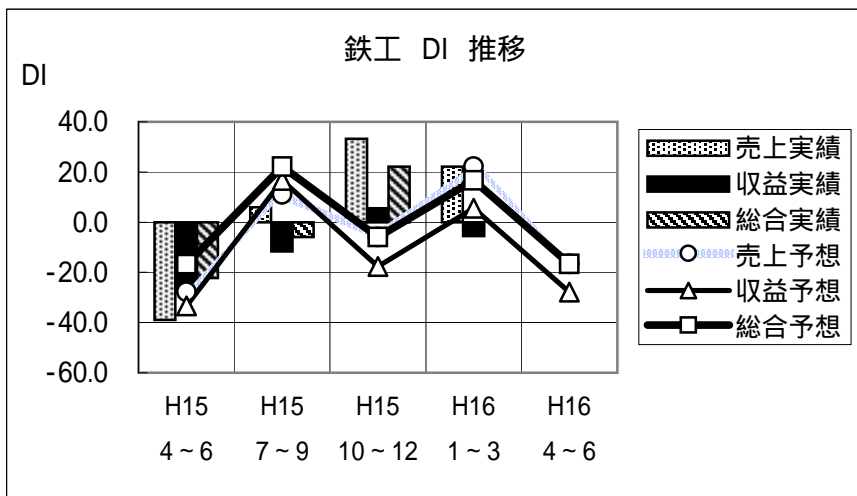
向こう3ヶ月の見通しは

今期と変わらず、1～2年厳しい状況が続くと思われる。

(エネルギー部会)

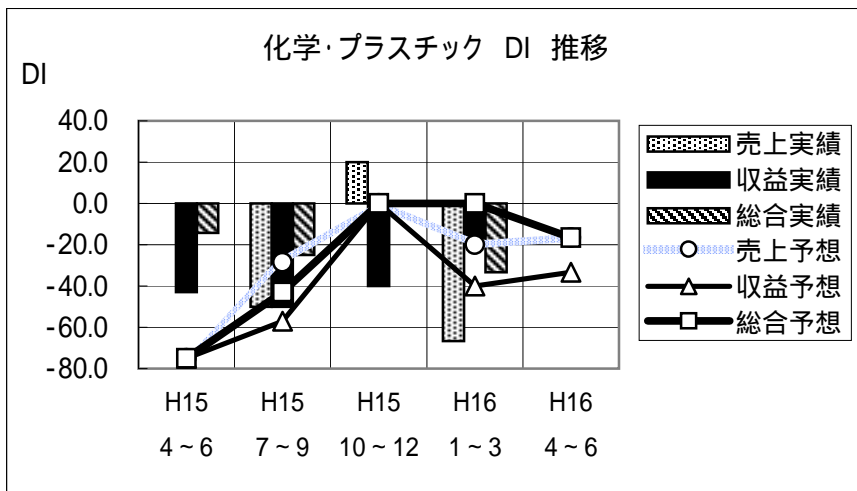
(化学・プラスチック) (DI 単位:%)

	前年同期比 (平成15年1月～3月)	前期比 (平成15年10月～12月)	来期見通し (平成16年4月～6月)
生産額・売上額	-66.7	-66.7	-16.6
製品・商品在庫	0.0	0.0	0.0
資金繰り	0.0	0.0	0.0
採算(収益)	-33.3	-16.6	-33.3
従業員数(含む臨時・パート)	0.0	0.0	0.0
貴社の業況(総合判断)	-50.0	-33.3	-16.6



<業況判断DIの推移>

	H15.4～6月	7～9月	10～12月	H16.1～3月	4～6月見通し
売上	-38.9	5.9	33.3	22.2	-16.6
収益	-27.8	-11.7	5.6	-5.5	-27.8
総合	-22.2	-5.9	22.2	0.0	-16.6



<業況判断DIの推移>

	H15.4～6月	7～9月	10～12月	H16.1～3月	4～6月見通し
売上	0.0	-50.0	20.0	-66.7	-16.6
収益	-42.9	-50.0	-40.0	-16.6	-33.3
総合	-14.3	-25.0	0.0	-33.3	-16.6

建設業

売上DI値は 23.1、前期実績10～12月期(20.0)に比して43.1ポイントの下降、収益DI値は23.1、前期実績10～12月期(6.7)に比して16.4ポイントの下降、総合判断DI値は15.4、前期実績10～12月期(6.7)に比して22.1ポイントの下降、いずれも悪化傾向である。見通しとしても、いずれも悪化傾向にある。

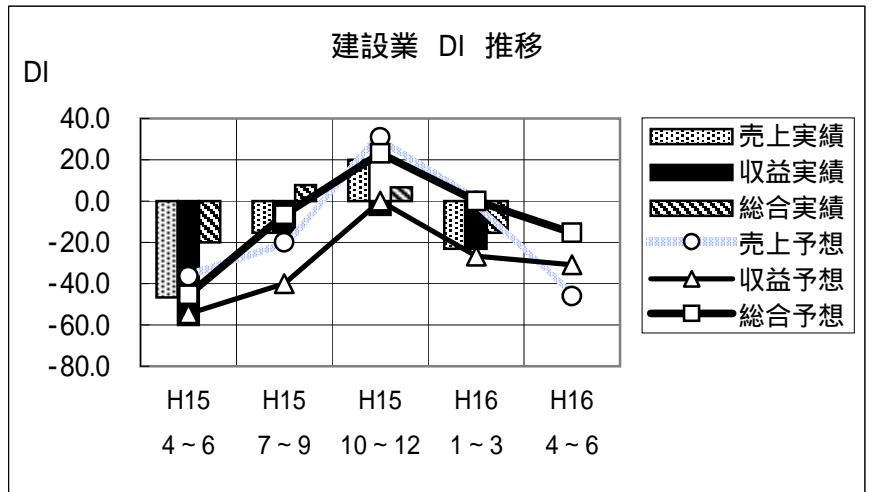
全体として持ち直し感はあるものの、低水準での推移という印象である。公共工事は、年度末の需要期ということで忙しい部分もあるが、小型物件が多く、前年割れの状態である。民間工事は、需用が回復しつつあると思われるが、相変わらず単価引き下げ要請も多く、受注競争が厳しく、採算面の改善は難しい状況である。

向こう3ヶ月の見通しは、公共工事は、新年度についても財政状況が厳しく発注が少ない見通しである。民間工事は、設備投資の増加の期待があるものの業者間の競争は厳しい。鋼材等の上昇による利益率の低下も懸念される。(建設部会)

建設業

(DI 単位:%)

	前年同期比 (平成15年1月～3月)	前期比 (平成15年10月～12月)	来期見通し (平成16年4月～6月)
生産額・売上額	-15.4	-23.1	-46.1
製品・商品在庫	-15.4	-15.4	-15.4
資金繰り	-15.4	-15.4	0.0
採算(収益)	-30.8	-23.1	-30.8
従業員数(含む臨時・パート)	0.0	0.0	-15.4
貴社の業況(総合判断)	-15.4	-15.4	-15.4



<業況判断DIの推移>

	H15.4～6月	7～9月	10～12月	H16.1～3月	4～6月見通し
売上	-46.7	-15.4	20.0	-23.1	-46.1
収益	-60.0	-15.4	-6.7	-23.1	-30.8
総合	-20.0	7.7	6.7	-15.4	-15.4

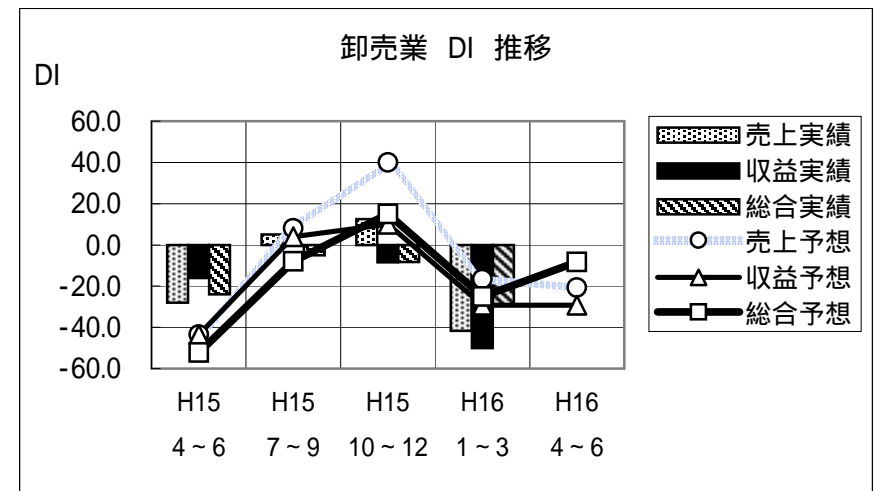
卸売業

売上DI値は 41.7、前期実績10～12月期(12.5)に比して54.2ポイントの下降。収益DI値は50.0、前期実績10～12月期(8.4)に比して41.6ポイントの下降、総合判断DI値は29.2、前期実績10～12月期(8.3)に比して20.9ポイントの下降と、いずれも悪化傾向が見られた。見通しとしては、売上、総合とも悪化傾向である。

卸売業

(DI 単位:%)

	前年同期比 (平成15年1月～3月)	前期比 (平成15年10月～12月)	来期見通し (平成16年4月～6月)
生産額・売上額	-20.8	-41.7	-20.8
製品・商品在庫	-45.9	-41.7	-8.3
資金繰り	-16.7	-8.3	-4.1
採算(収益)	-41.7	-50.0	-29.2
従業員数(含む臨時・パート)	-29.2	-29.2	-25.0
貴社の業況(総合判断)	-16.7	-29.2	-8.3



<業況判断DIの推移>

	H15.4～6月	7～9月	10～12月	H16.1～3月	4～6月見通し
売上	-28.0	5.0	12.5	-41.7	-20.8
収益	-16.0	0.0	-8.4	-50.0	-29.2
総合	-24.0	-5.0	-8.3	-29.2	-8.3

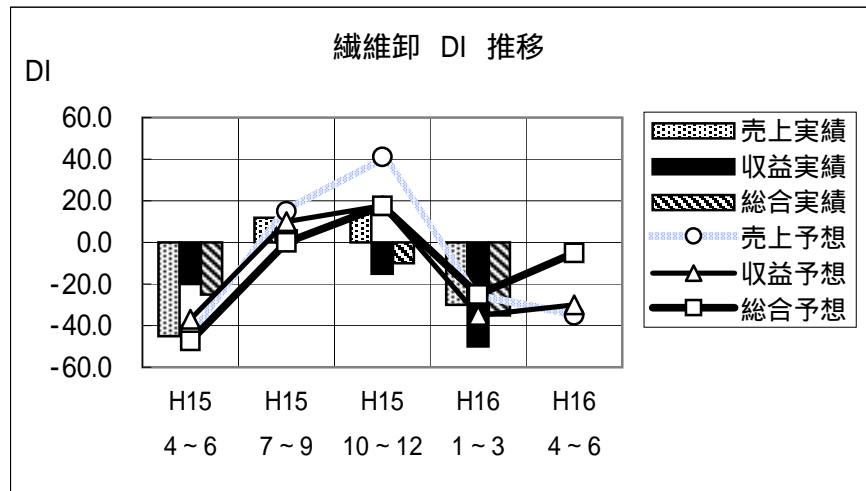
[繊維卸]

産業資材関連：バラツキが有るもののここに来て特に荷動きが悪くなっている。商品の動向がつかめない状況である。**服装関連**：例年1～2月は不需求期で大変厳しい時期ですが今年は特に量販ルートが苦しい。地方問屋の衰退で年々前売りの販売へシフトしている。益々単品少量販売となり、流通搬送業務も細かくなって、手間、ロスで物流経費倒れとなっている。素材に関しては、加工で中国品との差別化をしており、高級化・リピート体制の拡充・少量対応で販促しており、こだわり商品、特殊機能(防菌・防臭・うるおい効果等)を前面に出した商品で生残りを図っていく。今月から夏物の生産に入っているが、相変わらず不透明感が強い。**インテリア関連**：昨年秋以降の回復を思わせる動きもややパワフルといった感じだが、1年を通じこの時期一番期待出来る時でもある。産地の状況は織工場、加工場ともに良く動いている。加工では、光触媒が目立っている。特殊な形状をした糸、カスリ染め等カラフルな物が多く、このような糸を使ってカーテン地など好調に動いている。**衣料関連**：正月明けから荷動きの悪さが目立ち、ニューヨーク綿花相場の高騰に起因した中国、東南アジアを中心とした輸入綿糸、輸入綿布の急激な価格アップが生産コストにはね返り、繁忙期にもかかわらず足かせになっている。(繊維部会)

(繊維卸)

(DI 単位:%)

	前年同期比 (平成15年1月～3月)	前期比 (平成15年10月～12月)	来期見通し (平成16年4月～6月)
生産額・売上額	-25.0	-30.0	-35.0
製品・商品在庫	-55.0	-50.0	-15.0
資金繰り	-15.0	-5.0	0.0
採算(収益)	-45.0	-50.0	-30.0
従業員数(含む臨時・パート)	-30.0	-30.0	-30.0
貴社の業況(総合判断)	-20.0	-35.0	-5.0



<業況判断DIの推移>

	H15.4~6月	7~9月	10~12月	H16.1~3月	4~6月見通し
売上	-45.0	11.8	15.0	-30.0	-35.0
収益	-20.0	5.9	-15.0	-50.0	-30.0
総合	-25.0	0.0	-10.0	-35.0	-5.0

小売業

売上DI値は 44.1、前期実績10～12月期(35.3) に比して8.8ポイントの下降。収益DI値は 38.3、前期実績10～12月期(44.1) に比して5.8ポイントの上昇、総合判断DI値は 32.4、前期実績10～12月期(44.1) に比して11.7ポイントの上昇と、収益・総合では改善傾向であった。見通しとしては、いずれも改善傾向である。長引く不況により、ほとんどの個店では売上が減少している。去年10月1日からスタートした「第2回がまんバラリー(商店街スタンプラリー)」の抽選会が、2月29日(日)農林水産まつりにて開催され、加盟店で利用可能な商品券、そして各個店の魅力を生かしたスポンサー賞が決定した。これら事業実施により、市内消費者が個店を利用、個店の魅力が認識されたと思う。

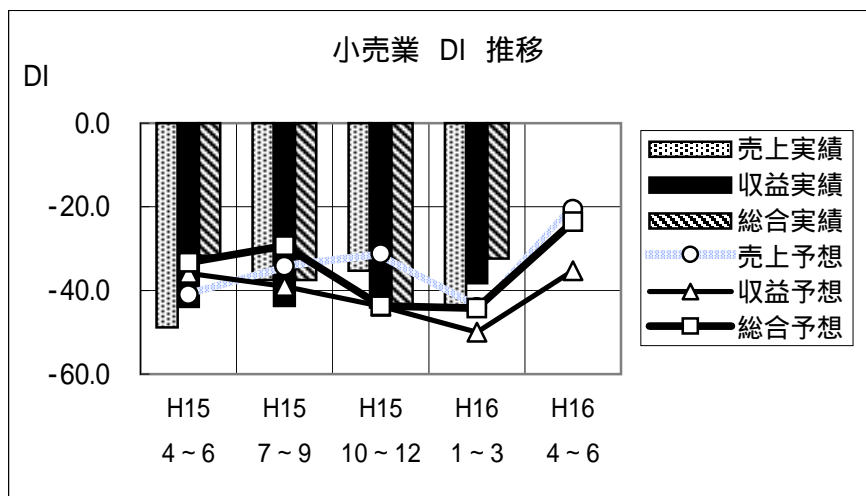
向こう3ヶ月の見通し

景気回復して個人消費の伸びを期待する。大型店カインズとサンヨネが8月オープン予定であり、4月から消費税の総額表示が義務付けされるなど、個店にとってあわただしくなると予想される。地元商店街としては、TMO(中心市街地活性化)事業として、空き店舗を使ったマルシェを4月から、また勝川の大弘法市を見本とする福寿稲荷ごりやく市を9月からスタートさせる予定である。(商業部会)

小売業

(DI 単位:%)

	前年同期比 (平成15年1月～3月)	前期比 (平成15年10月～12月)	来期見通し (平成16年4月～6月)
生産額・売上額	-35.3	-44.1	-20.6
製品・商品在庫	-3.0	-5.9	5.9
資金繰り	-38.2	-29.4	-23.6
採算(収益)	-41.2	-38.3	-35.3
従業員数(含む臨時・パート)	-2.9	0.0	5.9
貴社の業況(総合判断)	-29.4	-32.4	-23.6



<業況判断DIの推移>

	H15.4~6月	7~9月	10~12月	H16.1~3月	4~6月見通し
売上	-48.8	-37.5	-35.3	-44.1	-20.6
収益	-43.9	-43.7	-44.1	-38.3	-35.3
総合	-31.7	-37.5	-44.1	-32.4	-23.6

【飲食】

新年会や歓送迎会等も目立った変化はなく低調である。食品の安全性に関する問題は、報道されている程の影響は感じていないが、昨年の冷夏による米不足が響いてきた。仕入値でおよそ2割程度の値上がりが見られる。

向こう3ヶ月の見通し

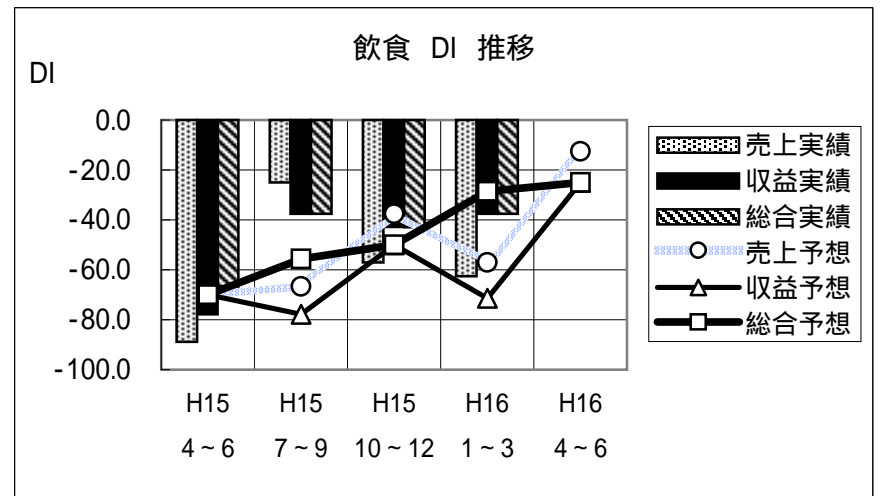
現状維持の見通し。各個展の自助努力にかかっている。蒲郡市観光協会の「がまポン」に参加するなどして来店者数の増加を図りたい。

(蒲郡市飲食業環境衛生組合連合会)

(飲食)

(DI 単位:%)

	前年同期比 (平成15年1月~3月)	前期比 (平成15年10月~12月)	来期見通し (平成16年4月~6月)
生産額・売上額	-37.5	-62.5	-12.5
製品・商品在庫	0.0	0.0	0.0
資金繰り	-62.5	-62.5	-37.5
採算(収益)	-50.0	-37.5	-25.0
従業員数(含む臨時・パート)	0.0	12.5	12.5
貴社の業況(総合判断)	-37.5	-37.5	-25.0



<業況判断DIの推移>

	H15.4~6月	7~9月	10~12月	H16.1~3月	4~6月見通し
売上	-88.9	-25.0	-57.1	-62.5	-12.5
収益	-77.8	-37.5	-42.8	-37.5	-25.0
総合	-66.7	-37.5	-42.9	-37.5	-25.0

【石油等その他小売】

灯油販売は、1月前年同月比7.8%、2月86%(全国統計)と推移し、かなり低迷の状況にある。暖冬傾向により収益悪化を招き、経営が圧迫されると思われる。また、OPECの減産決定による原油高騰の影響で仕入価格が大きく上がり、これに対する価格転嫁が急務であるが、転嫁が遅れば、利益圧迫となり更に一段と苦しい経営状況が続くと思われる。

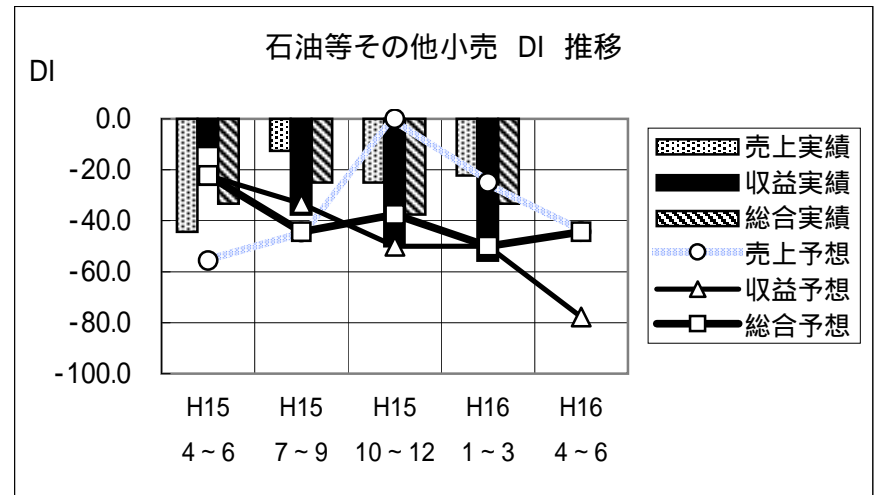
向こう3ヶ月の見通し

今後のイラク情勢によるOPECの原油価格の変動を、販売価格に転嫁できるかがポイントとなる。原油価格はこの四半期高値で推移すると思われる、業界として適正マージンの確保による市況価格構築の成否が経営に大きく影響すると思われる時期になる。ガソリンの市況低迷で収益悪化に直面している業界としては、灯油商戦で収益を補いたいところだが、暖冬気配により11月の販売は例年に比べ大幅な減少となり、灯油が売れる12月になっても販売不振が続いている状況。販売不振が、減収になるため暖冬気配に頭を痛めている。石油業界としては、実質的に利益口銭の圧迫が大きな要因となり、苦しい状況が続いている。(エネルギー部会)

(石油等その他小売)

(DI 単位:%)

	前年同期比 (平成15年1月~3月)	前期比 (平成15年10月~12月)	来期見通し (平成16年4月~6月)
生産額・売上額	-55.6	-22.2	-44.4
製品・商品在庫	0.0	0.0	0.0
資金繰り	-33.3	-22.2	-22.2
採算(収益)	-77.8	-55.6	-77.8
従業員数(含む臨時・パート)	0.0	0.0	0.0
貴社の業況(総合判断)	-33.3	-33.3	-44.4



<業況判断DIの推移>

	H15.4~6月	7~9月	10~12月	H16.1~3月	4~6月見通し
売上	-44.4	-12.5	-25.0	-22.2	-44.4
収益	-11.1	-37.5	-50.0	-55.6	-77.8
総合	-33.3	-25.0	-37.5	-33.3	-44.4

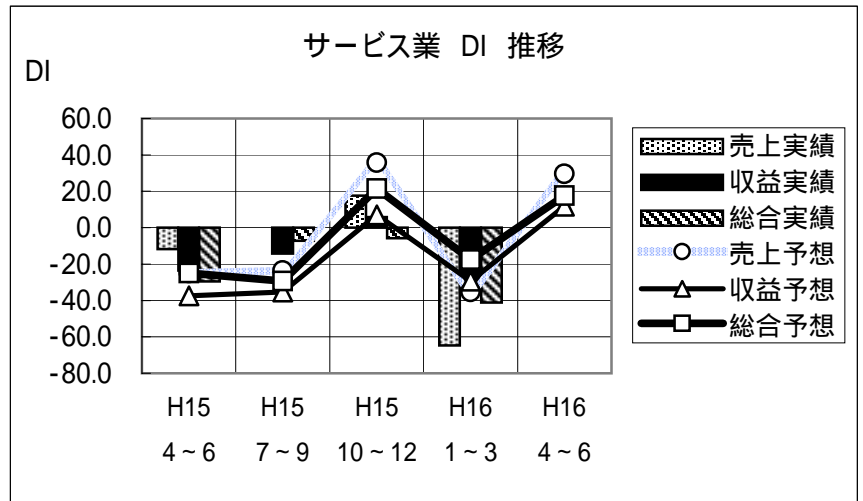
サービス業

売上DI値は 64.7、前期実績10～12月期（17.7）に比して 82.4ポイントの下降。収益DI値は 35.3、前期実績10～12月期（5.9）に比して41.2ポイントの下降、総合判断DI値は 41.2、前期実績10～12月期（5.8）に比して35.4ポイントの下降と、いずれも悪化傾向であった。見通しとしては、いずれも改善傾向である。

サ - ビス業

(DI 単位:%)

	前年同期比 (平成15年1月～3月)	前期比 (平成15年10月～12月)	来期見通し (平成16年4月～6月)
生産額・売上額	-35.3	-64.7	29.5
製品・商品在庫	0.0	0.0	0.0
資金繰り	-23.5	-23.5	5.8
採算(収益)	-41.2	-35.3	11.8
従業員数(含む臨時・パート)	5.8	5.8	11.7
貴社の業況(総合判断)	-35.3	-41.2	17.7



< 業況判断DIの推移 >

	H15.4～6月	7～9月	10～12月	H16.1～3月	4～6月見通し
売上	-11.8	0.0	17.7	-64.7	29.5
収益	-23.6	-14.3	5.9	-35.3	11.8
総合	-29.5	-7.1	-5.8	-41.2	17.7

[旅館]

初詣、新年会、歓送迎会等の多いシーズンであるが、利用人員・利用料金の伸びが無く厳しい状況である。ただし、一部では好調な業績を上げている企業の受け入れで、売上を確保しているが、全般的には景気が回復したとは言えない。

向こう3ヶ月の見通し

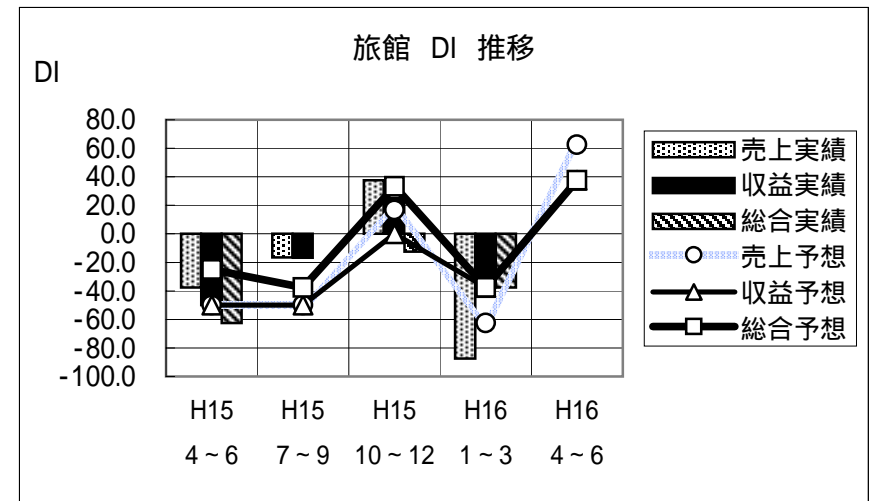
4月初旬から10月初旬にかけて実施される「浜名湖花博」の予約状況は、関西方面、特に中国、四国、北陸と拡がりを見せ始めており募集团体・法人団体等団体客が入り始めた。通常のお客に加え、花博のお客が入込んでくれば、4月以降はかなり期待できる。

(観光部会)

(旅館)

(DI 単位:%)

	前年同期比 (平成15年1月～3月)	前期比 (平成15年10月～12月)	来期見通し (平成16年4月～6月)
生産額・売上額	-37.5	-87.5	62.5
製品・商品在庫	0.0	0.0	0.0
資金繰り	-37.5	-37.5	12.5
採算(収益)	-37.5	-37.5	37.5
従業員数(含む臨時・パート)	0.0	0.0	12.5
貴社の業況(総合判断)	-37.5	-37.5	37.5



< 業況判断DIの推移 >

	H15.4～6月	7～9月	10～12月	H16.1～3月	4～6月見通し
売上	-37.5	-16.6	37.5	-87.5	62.5
収益	-50.0	-16.7	25.0	-37.5	37.5
総合	-62.5	0.0	-12.5	-37.5	37.5

運輸通信業

売上DI値は 45.4、前期実績10～12月期(36.3)に比して81.7ポイントの下降。収益DI値は 45.4、前期実績10～12月期(18.2)に比して27.2ポイントの下降。総合判断DI値は 45.4、前期実績10～12月期(9.1)に比して54.5ポイントの下降と、いずれも悪化傾向にある。見通しとしては、いずれも改善傾向にある。

運輸通信業

(DI 単位:%)

	前年同期比 (平成15年1月～3月)	前期比 (平成15年10月～12月)	来期見通し (平成16年4月～6月)
生産額・売上額	-36.3	-45.4	-9.1
製品・商品在庫	0.0	-9.1	9.1
資金繰り	-9.1	-9.1	0.0
採算(収益)	-36.4	-45.4	-9.1
従業員数(含む臨時・パート)	-18.2	-36.4	-9.1
貴社の業況(総合判断)	-54.5	-45.4	-9.1

[旅客・貨物輸送・水運]

海運関係：既存貨物(木材・自動車・木材加工品)の取扱いは非常に厳しい。荷主・貨物の開拓が早急に望まれる。

今後の見通し、久方振りに新規貨物(鋳物砂)の取扱いを開始(平成16年4月より)するところもある。

陸運関係：貨物量については、前期に比べ微増である。3月期末の増加に期待をする。

業界動向は、特定地域における車両の代替、随時ｽﾄﾘｯｸの取付け、燃料単価の上昇等業界の環境は良くない。また重税感是非常に大きい。

今後の見通し、製造業、輸出関連業については業況は良くなっているとは言え、我々業界に関しては、まだそのような気配すらない。横パイの状況だと思われる。5月の稼働日数によっては前期を下回る。

バス業界関係：昨年12月から本年1月にかけての観光バス稼働の落ち込みは大きい。4月以降の浜名湖花博に対する盛り上がりが大きく欠けており心配である。会員募集ツアーの催行数は多少改善してきたが、前年に比べては大幅減の状況が続く。乗合バスは、対前年をクリアして安定的に推移。

今後の見通し、4月以降、名鉄電車廃止代替バス運行による所期投資を大幅に実施する予定である。

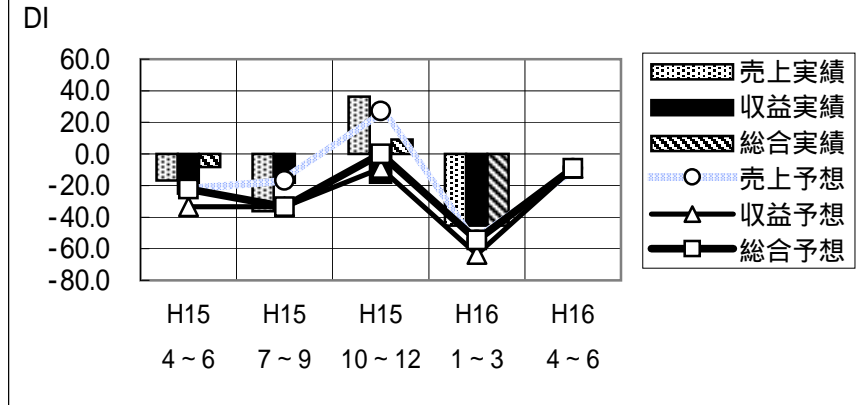
(運輸交通港湾部会)

(旅客・貨物輸送・水運)

(DI 単位:%)

	前年同期比 (平成15年1月～3月)	前期比 (平成15年10月～12月)	来期見通し (平成16年4月～6月)
生産額・売上額	-14.2	-14.3	0.0
製品・商品在庫	0.0	-14.3	14.3
資金繰り	-14.3	0.0	-14.3
採算(収益)	-28.6	-28.6	-14.3
従業員数(含む臨時・パート)	0.0	-28.6	0.0
貴社の業況(総合判断)	-42.9	-28.6	-14.3

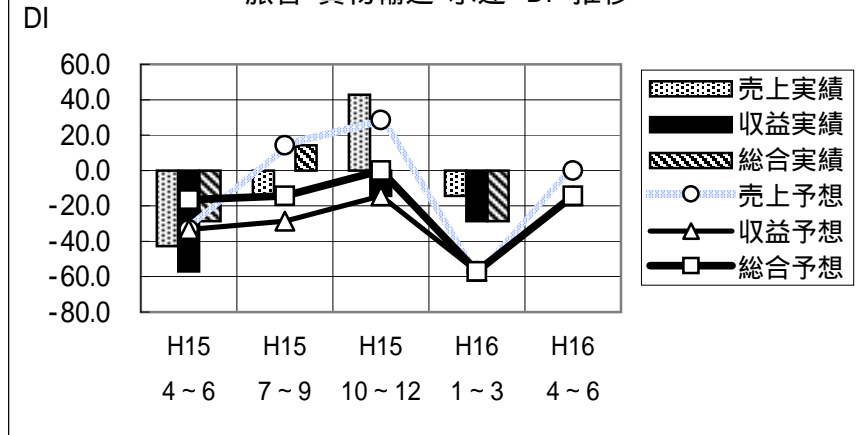
運輸通信業 DI 推移



<業況判断DIの推移>

	H15.4～6月	7～9月	10～12月	H16.1～3月	4～6月見通し
売上	-16.7	-36.3	36.3	-45.4	-9.1
収益	-25.0	-18.2	-18.2	-45.4	-9.1
総合	-8.3	0.0	9.1	-45.4	-9.1

旅客・貨物輸送・水運 DI 推移

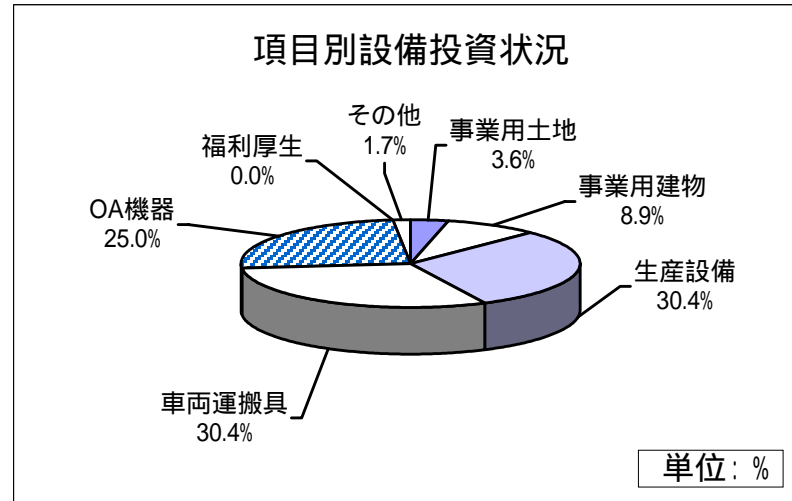
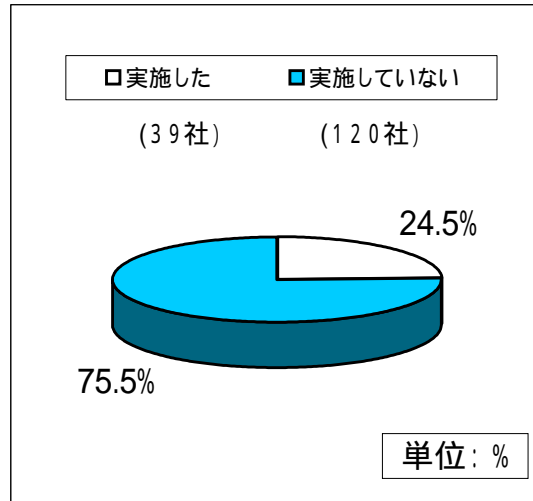


<業況判断DIの推移>

	H15.4～6月	7～9月	10～12月	H16.1～3月	4～6月見通し
売上	-42.8	-14.3	42.8	-14.3	0.0
収益	-57.1	0.0	-14.3	-28.6	-14.3
総合	-28.6	14.3	0.0	-28.6	-14.3

7. 設備投資動向

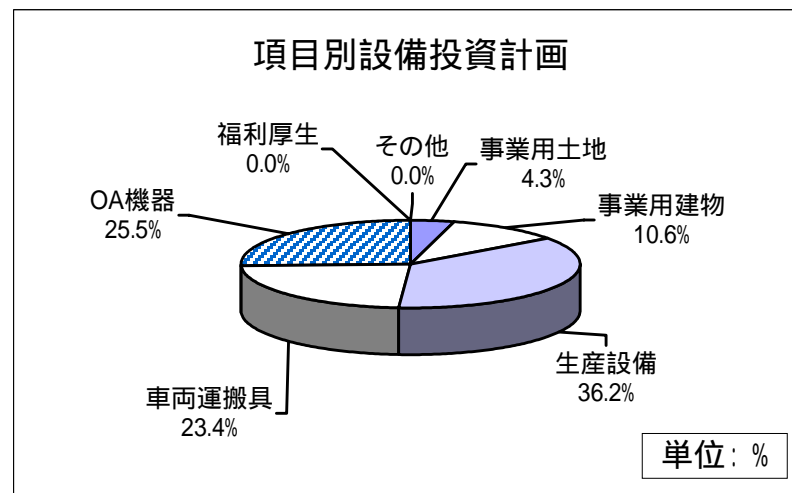
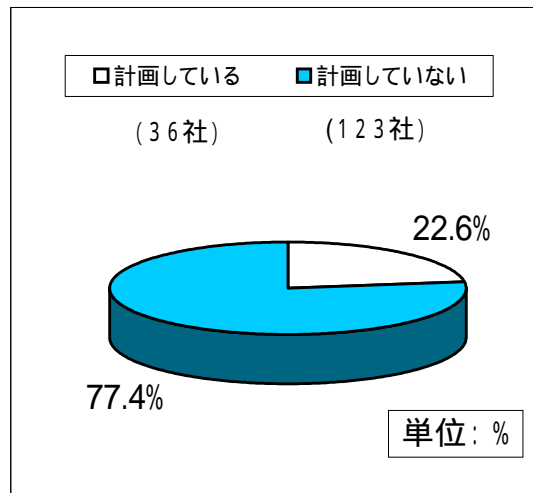
< 今期(H16.1~3月)設備投資実施状況 全業種 >



・1~3月期に設備投資を実施した企業は、39社(24.5%)あり、項目別には56件ある。そのうち生産設備(30.4%)、車両運搬具(30.4%)、OA機器(25.0%)に投資された。

・4~6月期に設備投資計画のある企業は、36社(22.6%)あり、項目別には47件ある。そのうち、生産設備(36.2%)、OA機器(25.5%)、車両運搬具(23.4%)の投資計画である。

< 来期(H16.4~6月)設備計画 全業種 >



設備投資・計画内容(全業種)

	今 期	来期見通し
事業用土地	2	2
事業用建物	5	5
生産設備	17	17
車両運搬具	17	11
OA機器	14	12
福利厚生	0	0
その他	1	0
計	56	47

(単位:件)

今期(H16.1~3月)、来期(H16.4~6月)設備投資実施、計画動向

	全業種	(単位:事業所)					
		製造業	建設業	卸売業	小売業	サ-ビス業	運輸通信業
1. 今期 (H16.1~3月)	39	21	3	6	2	3	4
2. 来期 (H16.4~6月)	36	17	1	5	5	2	6

8. 経営上の問題点

項目別経営上の問題点(全業種)

(上位5項目 回答企業数 159 社)

	項目	件数 %
1	売上の停滞・減少	114 71.7%
2	利幅の縮小	91 57.2%
3	競争激化	83 52.2%
4	販売納入先からの値下げ要請	30 18.9%
5	消費者ニーズの変化の対応	26 16.4%

(複数回答の為、総数と一致しません。)

- ・項目別経営上の問題点は、前回と比べ順位は同じである。
- ・業種別経営上の問題点は、全業種とも1位に“売上の停滞・減少”、2位に“利幅の縮小”、3位に“競争激化”をあげている。

業種別経営上の問題点

(上位3項目)

	1位	2位	3位
製造業	売上の停滞・減少 60社 43社 71.7%	利幅の縮小 37社 61.7%	競争激化 30社 50.0%
建設業	売上の停滞・減少 13社 12社 92.3%	利幅の縮小 11社 84.6%	競争激化 9社 69.2%
卸売業	売上の停滞・減少 24社 17社 70.8%	利幅の縮小 12社 50.0%	競争激化 11社 45.8%
小売業	売上の停滞・減少 34社 25社 73.5%	競争激化 17社 50.0%	利幅の縮小 17社 50.0%
サービス業	売上の停滞・減少 17社 11社 64.7%	競争激化 11社 64.7%	利幅の縮小 8社 47.1%
運輸通信業	売上の停滞・減少 11社 6社 54.5%	利幅の縮小 6社 54.5%	競争激化 5社 45.5%

(複数回答の為、総数と一致しません。)

付帯調査(地域デ - タ)

番号	調査項目	単位	H16.7報告	基準日	H16.4報告	基準日	H16.1報告	基準日	参照資料
1	人口	人		H16.7.1	81,893	H16.4.1	81,991	H16.1.1	市民課住民基本台帳
2	世帯数	世帯		H16.7.1	27,156	H16.4.1	27,100	H16.1.1	〃
3	15才～65才生産人口	人		H16.7.1	54,405	H16.4.1	54,612	H16.1.1	市民課
4	外国人登録者数	人		2004/6/31	1,408	H16.3.31	1,339	H15.12.31	〃
5	建築確認届出件数	件		H16.3月～16.5月	114	H15.12月～16.2月	75	H15.10月～11月(2ヵ月)	建築住宅課受付件数(別紙参照)
6	全国完全失業率	%	4.6	H16.5月	5.0	H16.2月	5.2	H15.11月	総務省(別紙参照)
	愛知県完全失業率	%		H16.1～3月	4.0	H15.10～12月	4.4	H15.7～9月	総務省(愛知県産業労働総務課より)
7	全国有効求人倍率	倍	0.80	H16.5月	0.77	H16.2月	0.74	H15.11月	総務省(別紙参照)
	蒲郡管内有効求人倍率	倍	0.85	H16.5月	0.83	H16.2月	0.79	H15.11月	蒲郡公共職業安定所(業務月報より)

全国データ

	労働			設備投資・住宅投資		GDP・景気動向指数		消費	
	完全失業者数 (万人)	完全失業率 (季調・%)	有効求人倍率 (季調・倍)	機械受注 (船舶電力除)前年比	新設住宅着工 (戸数)	名目国内総生産 (兆円)	実質成長率 前期比(%)年率	消費支出 (全国勤労者)前年比%	新車新規登録届出数 (乗用車 季調・万台)
1996年度	225	3.3	0.72	11.4	1,630,378	515	3.4	1.0	707.7
1997年度	236	3.5	0.69	3.9	1,341,347	520	0.2	0.2	672.5
1998年度	平均 294	4.3	0.5	18.6	1,179,536	514	0.8	0.8	587.9
1999年度	320	4.7	0.49	0.6	1,226,207	508	0.9	1.8	586.1
2000年度	320	4.7	0.62	16.6	1,213,157	513	3.0	1.2	596.3
2001年度	348	5.2	0.56	12.6	1,173,170	501	1.2	3.4	590.6
2002年1月	344	5.3	0.51	22.2	84,196	497	2.3	0.9	36.9
2月	356	5.3	0.50	16.1	85,775			5.6	51.7
3月	379	5.2	0.51	22.0	88,865			2.5	77.2
4月	375	5.2	0.52	17.9	98,924			0.6	40.3
5月	375	5.4	0.53	16.6	106,110	497	4.9	2.7	42.1
6月	368	5.4	0.53	7.6	101,502			2.0	50.2
7月	352	5.4	0.54	5.8	96,245			0.5	52.7
8月	361	5.4	0.54	20.3	97,653			0.9	36.6
9月	365	5.4	0.55	2.7	97,238	500	4.2	4.5	56.4
10月	362	5.5	0.56	1.9	103,567	498	0.7	1.0	44.3
11月	338	5.3	0.57	7.2	98,664			2.3	48.1
12月	331	5.3	0.59	0.3	92,184			1.1	43
2003年1月	357	5.5	0.60	18.8	82,770			2.0	38
2月	349	5.2	0.61	1.4	83,399	494	0.2	1.3	52.6
3月	384	5.4	0.60	11.7	87,297			2.6	82.3
4月	385	5.4	0.60	4.3	100,276			1.2	37.9
5月	375	5.4	0.61	12.2	97,970			1.1	42
6月	361	5.3	0.61	12.1	115,081	*497	*3.8	1.1	49.7
7月	342	5.3	0.62	6.1	98,718	*498	*2.7	4.2	52.5
8月	333	5.1	0.63	12.2	92,406			0.6	35.5
9月	346	5.1	0.66	0.6	98,369			2.0	57.2
10月	343	5.2	0.70	23.1	104,572			0.9	46.1
11月	330	5.1	0.73	13.4	98,399	*501	*7.3	0.1	45.8
12月	300	4.9	0.77	18.4	100,826	*506	*6.1	0.0	43.6
1月	323	5.0	0.77	3.0	88,797			1.0	40.4
2月	330	5.0	0.77	9.3	84,950			5.2	53.5
3月	333	4.7	0.77	0.2	93,285			0.1	84.9
4月	335	4.7	0.77	16.9	96,178			4.0	37.7
5月	319	4.6	0.80	—	98,889	—	—	—	39.6

(総務省)

(内閣府)

(国土交通省)

*は速報値(内閣府)

(総務省)(日本自動車販売協会連合会)